

2019. 11. 30.

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★幼児のためのおはなし会

○日時：令和元年12月4日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 ○対象：幼児

《11月のおはなし会で使った本》

『じゃない!』 チョーヒカル/作 フレーベル館 2019

『ぐりとぐら』（大型絵本）なかがわりえこ/さく 福音館書店 1998

『ころころじゃっぼーん』 長野ヒデ子/脚本・絵 童心社 2006

『あきぞらさんぼ』 えがしらみちこ/作 講談社 2018

★第3回新刊児童書閲覧会

○日時：令和元年12月14日（土）13：30～15：30 ○場所：山口県立山口図書館 第2研修室

○対象：公共図書館職員、学校図書館関係者、ボランティア等 ○定員：40名（要申込み・先着順）

○申込方法：12月13日（金）までに、電話、FAX、Eメールで申込み

★図書館と出会う読書活動「ライぶらり」フォーラム

○日時：令和2年1月24日（金）13：00～16：50 ※希望者のみライぶらり体験 11：00～11：40

○場所：山口県立山口図書館 レクチャールーム

○対象：公共図書館職員、子ども読書ボランティア、教諭、司書教諭、学校司書、学校図書館担当事務職員、県市町教育委員会指導主事、学校図書館関係者等 ○定員：100名（要申込み・先着順）

○申込方法：令和2年1月10日（金）までに、電話、FAX、Eメールで申込み

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<絵本-3, 4歳から>

『たいこ』 樋勝朋巳/ぶん・え 福音館書店 2019.10 ¥900

「トントントントン トントントントン」犬がたいこをたたいていると、「なかまに連れて」と男の子がやってきて、一緒に「トントンポコポコ トントンポコポコ」。次はかえるが仲間に加わって、「トントンポコポコベタベタ トンポコベタ」。お次にやってきたのは…？登場するキャラクターのおとぼけ感と、リズムカルなたいこの音が楽しい、読み聞かせにもおすすめの絵本。

<絵本-5, 6歳から>

『うっかりおじさん』 エマ・ヴィルケ/作 きただえりこ/訳 朔北社 2019.8 ¥1500

読者とのやりとりで冗談を交えながら、着々とお出かけの準備を進めていくうっかりおじさん。「めがねをみなかったかい？」と読者に語りかけ、「そうこれこれ！」と眼鏡をかける。「ぼうしはみなかった？」「こちら！かってにかぶらないでくれ！」とおじさんのおとぼけぶりが楽しいユーモアたっぷりの絵本。スウェーデンの優れた絵本に贈られるエルサ・ベスコフ賞を受賞。

『ひとりでおとまり』 まるやまあやこ/さく 福音館書店 2019.10 ¥900

まりは、仲良しのあやのちゃんの家にお泊りをする。あやのちゃんの家はおじいちゃん、おばあちゃん、赤ちゃんもいて6人家族。夕ごはんは、初めての手巻き寿司。お風呂もあやのちゃんと二人。楽しい気持ちで布団に入ったまりだったが、あやのちゃんが先に眠ってしまい…。初めてのお泊りのワクワク感とちょっぴりの不安感を優しいタッチで描いた、心温まる絵本。

<絵本-小学校低学年から>

『おおゆき』 最上一平/作 加藤休ミ/絵 鈴木出版 2019.10 ¥1400

雪国に住むゆうきとだいきの家に、大晦日の早朝、女の人がトイレを借りに来る。大雪で国道が渋滞し、動けなくなっていたのだ。じいちゃんが早速『トイレあります』の看板を作って出すと、たくさんの人が借りに来た。公民館では村の人が集まり、渋滞で身動きがとれない人たちにおにぎりや芋煮汁をふるまった。困った時に助け合うお互い様の心を伝える絵本。絵もほのぼのとして温かい。

<絵本-小学校中学年から>

『おおにしせんせい』 長谷川義史/作 講談社 2019.9 ¥1500

ぼくは小学5年生。好きな教科は図画工作。ある日、担任のおおにし先生が、一時間目から六時間目まで図画工作にすると言い出す。道具は太い筆一本。太い筆で大きく描くと腕が動き体が動く、と先生。そして、「からだがうごいたらはらがへるまえに、こころがうごくんや。よくみてえがくんや」。素敵な先生との出会いを描いた、作者の絵描きとしての原点ともいえる自伝的絵本。

『とんでいったふうせんは』 ジェシー・オリベロス/文 ダナ・ウルエコッテ/絵 落合恵子/訳 絵本塾出版 2019.9 ¥1500

僕たちは思い出という風船を持っている。僕のは弟より多いし、おじいちゃんのはもっと多くて、僕に黄、青、紫、それぞれの風船の思い出を話してくれる。でもこの頃おじいちゃん、風船をどんどん手放すようになってしまった。徐々に記憶を失っていく祖父を心配する男の子の揺れ動く気持ちを温かく優しく描いた米国の絵本。このデビュー作で2019年ゴールデン・カイト賞他受賞。

<読み物-小学校低学年から>

『しぶがきほしがきあまいかき』 石川えりこ/さく・え 福音館書店 2019.9 ¥1100

ちえちゃん、おばあちゃんに干し柿作りを教わることに。まずは、柿をもぐ道具を竹で作り、上手にもいだらせつせと皮むき。ひ

もに通したらカビが生えないようにお湯で消毒。あとはしっかり乾燥させて、お日さまにいっぱいあてて、あまーい柿になあれ。…あれ、カビが生えてる、あれ、夜中に誰かに食われてる。おぼあちゃん、大変。柿色が引き立つ鉛筆画の挿絵が印象的な作品。

『ホカリさんとあきのてがみ』 はせがわさとみ/作 かわかみたかこ/絵 文溪堂 2019.9 ¥1300

郵便配達員のホカリさんが仕事を終えて自転車をこいで家へ帰っていると、コオロギさんから夜空に輝く星に手紙を届けてほしいと頼まれる。あんな遠くのお星さまにいったいどうやって？そうか、いい方法みつけたぞ。さすがホカリさん、お手紙が漏かなくても、気持ちを伝える方法を見つけてくれます。他に、かしのきさんからもぐらさんへ、雲の子から森のお友だちへ、全3作品。

<読み物—小学校中学年から>

『青いあいつがやってきた!』 松井ラフ/作 大野八生/絵 文研出版 2019.8 ¥1300

新築の家に引っ越してきて2週間の小4のサトシ。一人でのびのびと遊べるのが好きな転校生というレッテルを貼られ、友だち作りのきっかけを無くしていた。そんなサトシのところに、土曜日の朝、突然やってきた全身青いカッパみたいなのやつ。今日一日一緒に過ごすと言われ、迷惑がっていたサトシだったが…。うまくいかないことを人のせいにしてばかりのサトシが、変わるきっかけをもらうお話。

<読み物—小学校高学年から>

『もうひとつの曲がり角』 岩瀬成子/著 講談社 2019.9 ¥1400

小5の春に、母親の強い勧めで英会話スクールに通い始めた朋。スクール近くのふと立ち寄った知らない道沿いの家で、朗読を聞かせるおばあさんに出会い、心安らく時間を過ごす。家では、野球部を辞めたいという中一の兄に、両親は、よりよい人生のため忍耐が必要だと言う。朋は、自分が何のために英会話スクールに通うのか考え始め…。思春期の子どもとその親も読みたい作品。

<読み物—中学生から>

『みかん、好き?』 魚住直子/著 講談社 2019.9 ¥1400

中2の時、両親と、祖父の住む瀬戸内海の島に引っ越した拓海。高1になったある日、祖父の作るみかんに感動して東京からこの島の高校に入学したというちょっと変わった、訳ありの同級生・ひなたと出会う。彼女のみかんへの一途な思いや祖父のみかん作りへのこだわりを知るうちに、拓海も自分の生き方を考えるようになり…。みかん作りの島で生きる若者たちの甘酸っぱい青春物語。

『南河国物語 暴走少女、国をすくう?の巻』 濱野京子/作 静山社 2019.10 ¥1200

遙か昔、黄砂舞う大陸の南河国に生まれた飾り職人の娘・紅玉。名将軍そっくりの父親が替え玉を仰せつかったが、見抜けるのは紅玉のみ。持ち前の度胸と機転を利かせて、周囲の男たちを翻弄し、訳ありの皇太子の侍女としても手腕を発揮していく。敵対する蒙呂族の仙術使いや長の娘をうまく利用し、ついに両国の橋渡しまで…。15歳の少女が大活躍するエンターテインメント時代小説。

『世界のはての少年』 ジェラルディン・マコックラン/著 杉田七重/訳 東京創元社 2019.9 ¥2800

スコットランドの西の果て、過酷なヒルタ島に住む少年たちは、島の収入源である海鳥を取るべく、夏休み、危険な断崖に渡る。ところが、3週間たっても迎えの船が来ない。息をのむような絶海の岩山で、9人の子どもと3人の大人たちの命がけの闘いが始まった。実際の事件をもとに描いた、少年たちの勇気と成長の物語。『不思議を売る男』に続く、2度目のカーネギー賞受賞作品。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『あかちゃんいまでのくらい?』 スムリッティ・プラサダム=ホルス/ぶん ブリッタ・テッケントラップ/え なかのまゆみ/やく 潮出版社 2019.11 ¥1800

おめでとう。もうすぐ弟か妹が生まれるよ。ママのお腹の中で赤ちゃんがどんな風に大きくなるのか見てみよう!1か月目赤ちゃんの大きさは毎日の砂粒。もうすぐ目と耳と鼻と口ができるよ。2か月目赤ちゃんの大きさはゼリービーンズ。3か月目…。お兄ちゃんやお姉ちゃんになる子どもが、赤ちゃんが生まれるのを楽しみに待てるよう、妊娠中のことを1カ月ごとにわかりやすく説明する。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『ニュースからくらしまで絵と新聞でわかる平成時代 平田さん家と日本の31年』 理論社 2019.9 ¥4500

首都圏に住む新モノ大好きな家族平田家。平成元年からの、その年の暮らしや服装の変化、話題のCMやドラマ、新商品や流行りものなどを、見開き2ページのイラストで紹介。また、次のページには、政治や事件、災害などのその年のニュースを、カラー写真の新聞記事と月別のできごと欄で紹介。30年4か月にわたる平成の時代を、年ごとに振り返る平成史。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『NHK スマホ・リアル・ストーリー 知らないところ!スマホ・SNS との正しい付き合い方』 NHK「スマホ・リアル・ストーリー」制作班/編 岩崎書店 2019.9 ¥3200

無料ゲームのはずだったのにいつの間にか課金してしまった、知らない人とつながって危険な目にあった、送った写真を加工されて嫌な思いをしたなど、スマホをもったことで巻きこまれる、実際にあった様々なトラブルを漫画で再現。トラブルの原因やその解決方法、防ぎ方などを、コラムやQ&Aでわかりやすく解説する。NHK Eテレの番組を元に構成した全5話を書籍化。

<ノンフィクション—中学生から>

『タネの未来 僕が15歳でタネの会社を起業したわけ』 小林宙/著 家の光協会 2019.9 ¥1600

多くの食物アレルギーがあることから食に興味を持ち、ついに15歳でタネの会社を起業した東京育ちの著者。高2になった彼が、日本各地の伝統野菜を守るために今取り組んでいる、タネ流通の新しい仕組みなどについて、深い知識を基に熱く語る。タネを求めて旅をし、畑を耕すと同時に、学業に励む高校生としての日常生活や様々な人との出会い、これまでのいきさつありのままに綴る。

<研究書>

『「学校図書館ガイドライン」活用ハンドブック 実践編』 堀川照代/編著 悠光堂 2019.10 ¥1500

2016年、「これからの学校図書館の整備充実について(報告)」の中で示された「学校図書館ガイドライン」。その会議の座長を務めた著者が、学校図書館ガイドラインを踏まえた学校図書館の運営や授業の実践に際し、現場から寄せられるであろう疑問をQ&Aで解説。小・中・高・特別支援・公共図書館・教育委員会での取組事例を、写真や具体的な資料と共に紹介する。

『ひらめきアイデアノート 学校図書館』 竹内純子/著 少年写真新聞社 2019.10 ¥1800

学校司書10年目の著者が、子どもたちに好評だった企画や、読書を支援する取組、学びを支援する取組を紹介し、学校図書館の充実のために日ごろ感じている思いを伝える。図書館のレイアウトや展示などの事例写真やオリエンテーション用の手書きの絵、学習での利用指導の掲示物やワークシートなどをフルカラーで紹介。実践で使った本のリストやコピーして使える資料も掲載。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。